

おもてなしの心を世界へ

川淵キャプテンら協議会設立

2020年東京五輪・パラリンピックを前に日本サッカー協会最高顧問(キャプテン)の川淵三郎氏らが24日、子供の体幹を鍛え、正しい姿勢やあいさつを身に付けさせる「おもてなしの心を世界へ」国民運動協議会を設立した。

川淵氏は、石原慎太郎元知事が提唱した「こころの東京革命」協会の会長を務める。子供に伝統的な礼法を広める「マナーキッズプロジェクト」(田中日出男理事長)と、都内を中心だったこれまでの取り組みを全国に広げるため、協議会を立ち上げた。

都庁で会見した川淵氏らによると、いじめ自殺や学級崩壊、電車内や路上でのマナーの乱れなど「日本人が劣化してきたのではないか」との懸念があるといい、スポーツイベントや音楽会などを通じた礼法指導に取り組んでいくという。

川淵氏は「正しいお辞儀ができれば、体幹も鍛えられ、組み体操をしてもけがをしなくなる」と主張。五輪を通じ、日本人の礼儀正しさやおもてなしの心を世界に発信できれば、「最大のレガシーになる」としている。

■体幹鍛え「おもてなし」

2020年東京五輪・パラリンピックに向け、「おもてなしの心」を世界に発信しようと、公益社団法人マナーキッズプロジェクト(杉並区)などが24日、協議会を設立した。「あいさつやおじぎなどの所作を身につけるには体幹を鍛える必要がある」とし、今後、全国でスポーツイベントなどを開くという。協議会には川淵三郎・日本サッカー協会最高顧問が会長を務める団体も参加。都庁で開いた会見で、川淵さんは「正しい所作をしてこそ相手を敬う気持ち伝わる」と述べた。幼稚園や小学校で遊びながら体幹を鍛える出前授業を続けるマナーキッズプロジェクトのノウハウを生かし、年100万人超の子どもの参加を目指して活動するとい



体幹を鍛えることの大切さについて語る川淵三郎さん(右)＝都庁

「おもてなし」世界へ五輪に向け国民運動

川淵さんら協議会

日本サッカー協会最高顧問の川淵三郎・首都大学東京理事長らが二十四日、都庁で記者会見し、二〇二〇年東京五輪・パラリンピックに向け、日本人の「おもてなし」の心を世界に発信する国民運動を始める、と



発表した写真。

川淵さんが会長を務めるこのころの東京革命協会(都青少年・治安対策本部内)、公益社団法人マナーキッズプロジェクト(田中日出男理事長)が運動母体の協議会を設立。礼法を指導するスポーツ行事や音楽会などを開催するという。川淵さんは「授業のたびに起立、礼、着席をするこゝとで体幹が鍛えられ、正しい姿勢にもなる。こういう活動を積極的に行っていたい」と説明。同席した間野義之・早稲田大スポーツ科学学術院教授は「二〇年大会は礼儀正しさやおもてなしの心を再評価し、磨いて、つないでいく絶好の機会になる」と語った。

おもてなし広げる協議会

首都大学東京の川淵三郎理事
長が24日、都庁で記者会見を開
き、「『おもてなしの心を世界
へ』国民運動協議会」を設立す
ると発表した。2020年東京
五輪・パラリンピックに向け、
子供たちに正しいあいさつや礼
儀作法の大切さを伝える活動を

催し企画へ

共創協議会



展開する。

同協議会には青少年の健全育

▲ 記者会見した川淵氏

成などに取り組む団体が参加。
東京五輪を「日本人が本来持っ
ている『おもてなし』の心を見
直す機会」ととらえ、礼儀作法
などに関する内容を盛り込んだ
スポーツイベントや音楽会、著
名人によるシンポジウムなどを
企画する。
川淵氏は記者会見で、「子供
たちにあいさつや礼儀作法とい
った社会性を身につけさせてい
きたい」と話した。